

第11回九州・沖縄地方産業競争力協議会 開催結果

- 九州・沖縄地方産業競争力協議会では、九州の強みである「グリーン」「医療・ヘルスケア・コスメティック」「農林水産業・食品」「観光」の4つの戦略分野を柱として21のプロジェクトを再設定するとともに、アフターコロナ、SDGs、先端技術、働き方改革の視点を踏まえ、令和3年3月に戦略を改訂し、「九州・沖縄地方成長産業戦略～九州・沖縄Earth戦略Ⅱ～」を取りまとめ。
- 九州・沖縄Earth戦略Ⅱとなってから初めての開催となった第11回の協議会では、21プロジェクトのうち、10プロジェクトについての進捗状況報告を行った。各プロジェクトについて委員から出た意見を踏まえ、今後の取組への反映や新たなKPIの設定を検討することとなった。
- また、九州発プロジェクトによる国の重点投資実行に向けて意見交換を行い、人材育成や確保、脱炭素社会実現、デジタル実装を進め、九州が先頭を走って行けるよう、本協議会の中でもしっかりと取り組んでいくことで一致。

【開催概要】

- 日時：令和4年7月14日（木）10:00～12:00
- 場所：ソラリア西鉄ホテル 8階「彩雲」
- 出席者：
 - ・会長 倉富 純男（九州経済連合会会長）
 - ・委員 民間企業等経営者 7名
福岡県 服部知事、大分県 広瀬知事、
鹿児島県 塩田知事、はじめ
九州・沖縄・山口9県及び3政令市
 - ・オブザーバー 地方支分部局10機関の長等
 - ・事務局 大分県、九州経済連合会、九州経済産業局、
沖縄総合事務局

● 議題：

- ①各プロジェクトの進捗状況について
 - ②九州発プロジェクトによる国の重点投資実行に向けて
- 取組紹介：九州経済産業局の取組紹介
- ・九州におけるカーボンニュートラル推進に向けた取組
 - ・九州半導体人材育成等コンソーシアム
- 情報提供：2025年日本国際博覧会について

▼倉富会長



▼広瀬知事



▲苗村局長



▲服部知事



▲塩田知事



▲博覧会協会



▲会議の様子

九州・沖縄Earth戦略Ⅱ ～新たな課題解決に挑むアジアのゲートウェイ・九州～

背景

- ◇国の成長戦略は道半ば
- ◇米中覇権争いとグローバルサプライチェーンの揺らぎ
- ◇新型コロナウイルス感染症の猛威と激甚化する自然災害

九州・沖縄の現状と課題

- ◇再エネ導入、医療機器産業参入、食の輸出、インバウンドの拡大
- ◇人口減少、カーボンニュートラル等への対応

九州・沖縄の強み

- ものづくり産業の集積
- 豊かな自然
- アジアとの近接性

九州・沖縄の強みを活かす戦略分野の推進
クリーン、医療ヘルスケア、農林水産業・食品、観光

アジアのゲートウェイ化の推進
アジアへの輸出とインバウンドの拡大

新たなテーマへの挑戦
SDGs、先端技術、働き方改革、アフターコロナ

九州・沖縄の強みを活かす戦略分野

1 クリーン分野

- 【水素】再エネ由来水素利活用の技術開発や水素関連産業の参入促進
- 【地熱・温泉熱】地域と共存可能なプロジェクトの創出と海外展開
- 【海洋】専門人材の育成やサプライチェーン形成による地場企業の参入促進
- 【次世代自動車】地元企業の開発力強化と電子・電装系企業の集積
- 【省エネ】有機EL分野の共同研究開発や参入促進
- 【環境・エネルギー】環境リサイクル技術のアジア展開、課題解決の推進

2 医療・ヘルスケア・コスメティック分野

- 【医療・福祉機器】自治体間連携による医療機器産業への参入促進
- 【バイオ】核酸医薬やゲノム編集技術活用等による革新的医薬品の開発推進
- 【コスメティック】地産農林水産物を活かした化粧品の研究開発の推進

3 農林水産業・食品分野

- 【食の輸出】食品製造事業者への地域商社を介した販路開拓支援
- 【スマート農林水産業】事例共有や体験機会等の提供、データ活用の推進
- 【農山漁村発イノベーション等の推進】農泊や農福連携の推進

4 観光分野

- 【観光基盤】宿泊施設のグローバル対応促進と観光産業の人材育成
- 【誘客と観光消費】
欧米豪や中国個人客等へのプロモーション強化による誘客地域の多角化
自然や食、歴史、文化を活かした観光サービスや広域旅行商品の創出
統合型リゾート（IR）の誘致活動推進

分野を超えた横断的取組

1 SDGsの普及・実装

- ・産学官金プラットフォーム「九州SDGs経営推進フォーラム」による地域・社会課題解決に向けた企業と自治体との対話促進

2 創業・ベンチャーの創出

- ・「Fukuoka Growth Next」など地域における創業支援体制の強化
- ・九州・山口ベンチャーマーケットなど国内外とのビジネスマッチングの強化

3 先端技術やビッグデータの活用

- ・多様なステークホルダーが共創できる環境づくり
- ・衛星データや民間データも含めたビッグデータの連携・オープンデータ化

4 ダイバーシティ経営の推進

- ・男性の家事・育児の促進等、妊娠・出産・子育てをしやすい環境の整備
- ・テレワークや副業・兼業などの定着を見据えた働き方改革のさらなる推進
- ・オンラインも活用した域内就職やUIターン就職の促進

5 グローバル人材の確保・育成

- ・自治体、企業の連携による留学生の域内企業への就職、起業促進

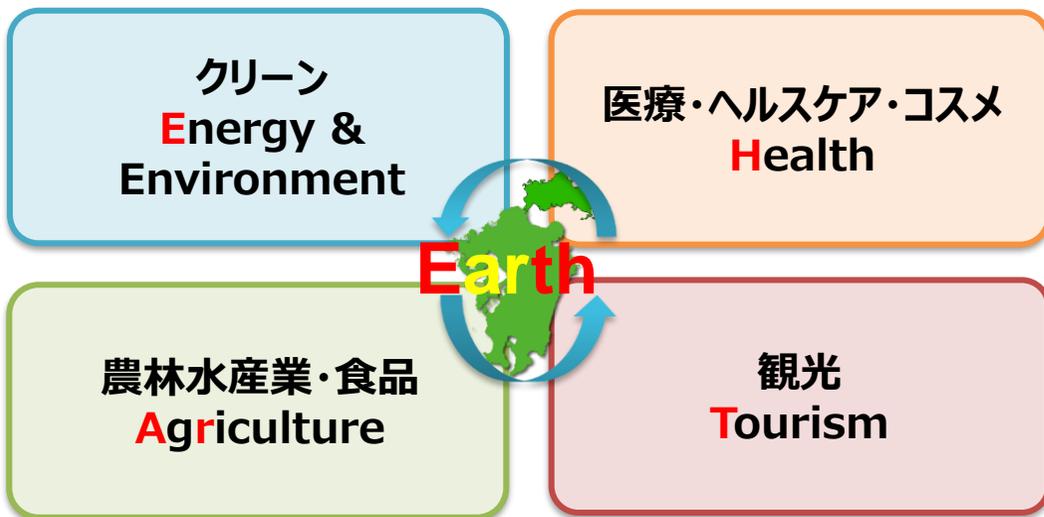
6 その他

- 【宇宙ビジネス】九州宇宙戦略推進会議による宇宙ビジネスへの挑戦
- 【その他】国際化、オープンイノベーション、インフラ強靱化、九州～沖縄連携

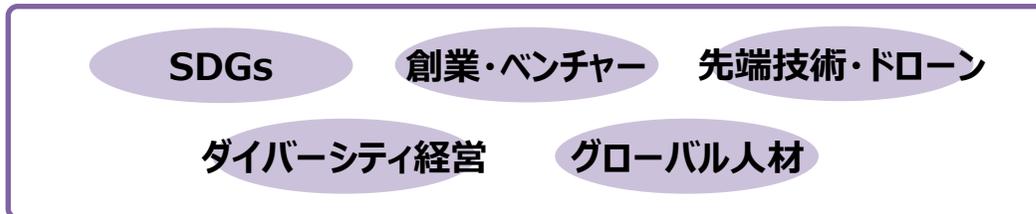
九州・沖縄Earth戦略Ⅱ

- 九州・沖縄の強みを活かす4つの戦略分野における取組を推進し、新たな課題解決に挑むアジアのゲートウェイ・九州として持続的な発展を目指す。

戦略分野



横断的取組



共通する4つの視点



九州・沖縄Earth戦略Ⅱで進める21のプロジェクト

戦略分野	クリーン	①九州水素エネルギー社会実現プロジェクト ②地熱・温泉熱エネルギー産業拠点化推進プロジェクト ③海洋再生可能エネルギー産業の拠点形成プロジェクト ④北部九州自動車産業アジア先進拠点推進プロジェクト ⑤有機光エレクトロニクス産業拠点化プロジェクト ⑥九州・アジア環境エネルギー産業推進プロジェクト
	医療・ヘルスケア・コスメティック	⑦ヘルスケア産業振興プロジェクト ⑧革新的医薬品等創出拠点プロジェクト ⑨バイオ産業振興プロジェクト ⑩唐津コスメティック構想推進プロジェクト
農林水産業・食品	⑪九州の食の輸出推進プロジェクト ⑫スマート農業推進プロジェクト ⑬スマート水産業推進プロジェクト ⑭農山漁村発イノベーション等の推進プロジェクト	
	観光	⑮九州観光戦略プロジェクト
横断的取組	SDGs	⑯九州SDGs経営推進プロジェクト
	創業・ベンチャー	⑰創業・ベンチャー企業創出プロジェクト
	先端技術・ドローン	⑱先端技術活用推進プロジェクト ⑲ドローン産業振興プロジェクト ⑳ものづくりにおける組込みソフトウェアへの軽量Ruby活用促進プロジェクト
	グローバル人材	㉑グローバル人材の育成・活用促進プロジェクト

議題1 各プロジェクトの進捗報告 各委員の主なコメント

●プロジェクトNo①九州水素エネルギー社会実現プロジェクト（幹事：福岡県）

【広瀬委員】

- ◆福岡県で燃料電池自動車を中心に水素の利活用を進めているが、カーボンニュートラルの研究が進む中、水素還元製鉄など、多岐にわたる利活用案が進んでいるので、目配りが必要ではないか。

●プロジェクトNo②地熱・温泉熱エネルギー産業拠点化推進プロジェクト（幹事：大分県）

●プロジェクトNo③海洋再生可能エネルギー産業の拠点形成プロジェクト（幹事：長崎県）

【吉田委員】

- ◆中小企業では、小型発電の要望が多い。地熱は、冷熱活用にも目を向けてほしい。温泉熱についても、バイナリー発電など、給湯よりも低い（40～100度）、未利用の熱源の有効活用を。
- ◆海洋エネルギーも、風力発電だけでない。地球温暖化に伴い海洋温度が上昇し、海洋にも熱が蓄積されており、アイデアとして、そのような見えにくい未利用熱の利活用も検討してほしい。

●プロジェクトNo⑥九州・アジア環境エネルギー産業推進プロジェクト（幹事：九州経済産業局）

【広瀬委員】

- ◆廃プラスチックを化学的に分解、活用するケミカルリサイクルの可能性も出ているので、このような動きも見ていく必要があるのではないか。

議題2 九州発プロジェクトによる国の重点投資実行に向けて 各委員の主なコメント

クリーン

【倉富会長】

- ◆九州は脱炭素で先行している地域であるので、それを全面的に押し出すためにも、国の方で進めている地方創生SDGs登録認証制度について、レベルの違いはあって良いと思うが、九州の市町村全部が手を挙げられないかと思っている。本協議会でもそのような動きがあっても良いのではと思っている。

先端技術

【吉村委員】

- ◆ウィズコロナに対応する働き方改革、生産性向上を実現するため、DXは欠かせない。デジタル人材が足りず、企業間で奪い合いになっている。定年を延長してでも確保する企業がたくさんある。新卒はもちろん、再教育も含めて人材育成を考えていただきたい。
- ◆商工会議所でプレミアム付き商品券を、半数を紙で、半数を電子で発行した。結果として、紙の商品券への申請が殺到し、電子は申し込みが少なかった。電子の商品券については、使い方が分からない等の厳しいご意見もあった。利用する側のITスキル向上にも取り組むべき。

スタートアップ

【池内委員】

- ◆スタートアップにおいて、九州は大変チャンスがある環境であると思う。開業率が2021年は4.8%で、目標は11%。起業したい人の数が少なく、どうやって掘り起こせば良いかが課題であるが、シーズから掘り起こすしかない。VC、メンター、専門家について、九州だけでなく、海外も含めて層を厚くすることも重要だと考えている。大学発ベンチャーを応援している。会社を辞めて起業するほどのリスクを負えない人も多い。企業内ベンチャーの育成を支援することが重要。

人への投資

【龍造寺委員】

- ◆「Work in Kyushu」で留学生と企業のマッチングの実績を積み上げてきたが、コロナの影響により進まなくなった。少しずつ留学生が戻ってくるという意味では、また再びマッチングを進めなければならない。
- ◆人への投資としては、人材確保、特に理工系人材の地元企業への就職促進が重要。半導体関連を中心に、より多くの人材が必要になり、人材不足が加速していく。留学生とのマッチングだけでなく、「Work in Kyushu」プラス「Work with Kyushu」ということで、留学生を九州・沖縄の企業に就職させるだけでなく、九州以外に住むグローバル人材や様々な方々と九州・沖縄の企業とのマッチングができるようになる、そうした取組が必要。

【広瀬委員】

- ◆IT人材は、企業だけでなく大学、高専で人材を育てないと間に合わない。全国知事会でも大学、高専で新たなIT人材育成のための学部・学科の創設を要望する動きが出ている。